

科目名	看護学概論					
単位	2	時間数	60	対象学年	1	
担当講師	原 久恵 ※実務経験あり					
ねらい	看護の概念を捉え、看護の対象を理解し看護の果たす役割について学ぶ。 看護学概論は看護の基本的な考えを構築するものである。					
到達目標	1. 看護師のコミュニケーションの特徴を理解し、効果的なコミュニケーション技術について理解する。 2. 看護の概念を捉え、看護の対象及び看護の役割・機能について理解する。 3. 保健・医療・福祉・看護における国際化とこれからの展望について考える。 4. 職業倫理として、看護倫理、対象者の権利擁護について理解する。					
準備学習	授業時間外の自己学習が必要です。(30時間) 講義前後にレポートが必要な授業があります。小テストを4回実施します。予習や復習を行いましょ う。					
授業計画						
担当	回	内容	方法	回数	内容	方法
原	1	どのような看護師をめざすのか	DVD 講義	16	世界とわが国の健康課題	発表
	2	これからどのような学生生活を送って夢を実現するのか	講義	17	国際生活機能分類	講義
	3	自己紹介	発表	18	看護師の定義と業務・免許の交付・就業者数	講義
	4	コミュニケーション 傾聴と共感	講義	19	教育制度・卒後臨床研修制度	講義
	5	アサーティブネス	講義	20	免許から生じる義務・キャリアアップ	講義
	6	接近的行動と情報収集	講義	21	看護の歴史	講義
	7	ストレスコーピング プロセスレコード	講義	22	ナイチンゲールの主張を理解する	講義
	8	ホメオスタシス・成長発達	講義	23	〃	講義
	9	ニード論・危機理論	講義	24	〃	発表
	10	わが国の家族と生活	講義	25	倫理とは	講義
	11	〃	講義	26	臓器移植	講演
	12	生活の定義	講義	27	倫理の歴史	講義
	13	健康の定義プライマリヘルスケアなど	講義	28	看護倫理 看護者の倫理綱領	講義
	14	世界とわが国の健康課題	講義	29	看護者の倫理綱領	講義
	15	〃	講義	30	看護とは	演習
評価方法	科目試験：小テスト①（8回目）・②（13回目）・③18回目・④25回目 各5点/20点 試験（科目終了後） /75点 エイズ講演会への参加レポート /5点 レポート提出1点加算（提出期限が守れていない0点・提出なければ-1点）					
テキスト	1) 茂野香おる 他：基礎看護学1 看護学概論 医学書院 2020 1～30 2) 茂野香おる 他：基礎看護学2 基礎看護技術I 2019 4～7 3) ナイチンゲール 湯楨ます他役：看護覚え書き、現代社 22～24 4) 看護者の基本的責務 日本看護協会出版 18～20・28～29					

科目名	看護研究基礎				
単位	1	時間数	15	対象学年	1
担当講師	橋本 淳子 ※実務経験あり				
ねらい	看護研究の基礎を知り、研究を通して看護を深める方法や過程を学ぶ				
到達目標	看護における研究の意義並びに看護研究のプロセスが理解できる。また、看護の視点から課題に対して文献を検索、形式にそってまとめることができる。 1) 看護における研究の意義・研究プロセスが理解できる 2) 課題に対する文献検索ができる 3) 文献レビューを形式に沿って作成できる				
準備学習	授業時間外の自己学習が必要です。(30時間) ・文献リストの作成にかかわる追加の検索とまとめ (広島県立図書館の使用等や文献を読みまとめる時間) ・文献レビューの作成 上記の内容についてしっかり自己学習しましょう。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
橋本	1	研究とは(意義・必要性) 研究の種類と特徴、倫理的配慮について	講義		
	2	研究プロセス・文献検索の必要性・課題や疑問の発見	講義		
	3	課題や疑問の発見・文献検索	講義・演習		
	4	文献検索	講義・演習		
	5	文献検索・文献レビューの作成	講義・演習		
	6	文献検索・文献レビューの作成	講義・演習		
	7	文献レビューの発表	講義・ グループワーク		
	8	研究のプロセスと文献検索の必要性のまとめ 8回目の授業終了後、筆記試験	講義		
評価方法	筆記試験 50点 提出物・文献レビュー 50点				
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方 照林社 系統看護学講座 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 医学書院				

科目名	看護研究応用				
単位	1	時間数	15	対象学年	3
担当講師	橋本 淳子 ※実務経験あり				
ねらい	課題研究・事例研究を通して看護を深め、看護実践を科学的に捉える思考過程を学ぶ				
到達目標	看護研究を通して、看護実践を科学的に捉え、根拠ある実践過程が理解できる 1) ケーススタディの目的、構成を理解できる 2) 研究計画書を、研究動機や目的を明確に表現しながら立案することができる 3) クリティークの実施を通して、科学的にクリティカルな視点で研究を捉えることができる				
準備学習	授業時間以外にも30時間程度は自己学習が必要です。 ・クリティーク2回(県下看護研究集録等・クラスメイト) ・研究計画書 ・文献検索およびリスト作成 上記提出物の作成、および事例研究の基礎知識についての復習は推奨します。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
橋本	1	看護研究とケーススタディの位置づけ、ケーススタディの目的 研究計画書の書き方とケーススタディの構成	講義		
	2	クリティークの方法・ケーススタディのクリティーク	講義・演習		
	3	研究テーマの設定	演習		
	4	研究計画書の記入	講義		
	5	研究計画書の記入	演習		
	6	研究計画書の記入	演習		
	7	研究計画書の発表とクリティーク	演習		
	8	ケーススタディの目的や構成のまとめ 8回目の授業終了後、筆記試験	講義		
評価方法	筆記試験 50% 研究計画書 50%(評価資料参照)				
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方 照林社				

科目名	卒業研究				
単位	1	時間数	30	対象学年	4
担当講師	廣保 晴美 ※実務経験あり				
ねらい	看護研究に必要な基本的知識を身につけ、自己の看護観を明確にできる。				
到達目標	<p>目標1. 問題意識を持ち、意欲的に研究に取り組むことができる。</p> <p>目標2. 研究を計画的に進めることができる。</p> <p>目標3. 研究活動に必要な文献検索・収集・読解の方法を学び、活用できる。</p> <p>目標4. 研究論文に必要な一定の形式・文体で記述できる。</p> <p>目標5. 自己の体験を振り返り、看護師としての意識を確立できる。</p> <p>目標6. 研究発表に必要な準備を行い、適切な発表ができる。</p>				
準備学習	<p>研究作成として計15時間</p> <p>領域別実習1～3クール目で学習したケースについて、指導担当教員とスケジュール調整し、指導を受けながら研究を進めていく。</p>				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
		4月：オリエンテーション			
	1	意見交換会 現在考えている研究内容について意見交換する	グループワーク		
	2	意見交換会での意見をもとに自己の研究を考える	演習		
	3	校内研究発表会オリエンテーション 口頭発表について			
	4	発表原稿作成			
	5	抄録作成			
	6	校内研究発表会準備			
	7	発表練習 感想・質問準備			
	8	校内研究発表会			
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					
評価方法	<p>卒業研究評価表（レーブリック評価）で評価する。</p> <p>論文作成 40%（期限 20%、倫理 10%、取り組み 10%）</p> <p>内容 50%（論理性 20%、看護体験の意味付け 30%）</p> <p>発表 10%</p>				
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方 照林社				

科目名	共通看護技術				
単位	1	時間数	30	対象学年	1
担当講師	土井恵子 ※実務経験あり 亀川典子 ※実務経験あり				
ねらい	看護技術の特殊性と基礎看護技術の意義を学ぶ。 看護を実践する上で基本となる技術を学ぶ。 生命を維持する過程の意義を理解し、それを判断する技術及び援助方法を習得する。				
到達目標	安全 目標 1. 看護における安全対策について理解することができる。 目標 2. 標準予防対策の技術を習得できる。 バイタルサイン 目標 1. 生命徴候の観察の意義と方法を理解することができる。 目標 2. 原理原則に基づいたバイタルサイン測定 of 技術を習得できる。				
準備学習	予習・復習・課題学習として計 15 時間 技術まとめ帳（手洗い・ガウンテクニック、バイタルサイン測定・電法）の作成				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
土井	1	看護における観察の目的と方法・観察の視点と内容	講義		
	2	看護記録の意義と種類・方法、報告の意義と方法	講義		
	3	安全の意義、安全を阻害する因子、安全を守る技術	講義		
	4	感染防止の基礎知識	講義		
	5	感染防止対策の基本、標準予防対策（スタンダードプリコーション）	講義・演習		
	6	標準予防対策の実践	演習		
	7	標準予防対策の実践	演習		
亀川	8	バイタルサインとは バイタルサイン測定の方法と留意点	講義		
	9	血圧に関する基礎知識 血圧測定（聴診法・触診法）の原理	講義		
	10	体温維持に関する基礎知識、体温測定の方法 体温に異常をきたした人への援助（電法の援助技術）	演習		
	11	バイタルサイン測定と温電法の実践	演習		
	12	バイタルサイン測定と温電法の実践	演習		
	13	呼吸・脈拍に関する基礎知識	講義		
	14	バイタルサイン測定技術 評価会	演習		
	15	バイタルサイン測定技術 評価会	演習		
評価方法	筆記試験：80% 技術試験：20% 留意点 1. 課題提出の期限を守れない場合は、点数なし。 2. 演習の身だしなみが整っていない場合は、減点（-2点）とする。 3. 技術試験で遅刻・欠席・身だしなみが整っていない・忘れ物がある場合は受験できない。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版				

科目名	生活環境援助技術						
単位	2	時間数	45	対象学年	1		
担当講師	土井 恵子 ※実務経験あり		林 清美 ※実務経験あり				
ねらい	人間にとっての快適な環境について理解し、健康障害をもつ対象が安全で安楽な生活をするための援助を習得する。						
到達目標	<p>環境 目標 1. 環境とは何かを理解できる 目標 2. 快適な療養環境を理解し、望ましい病床環境を考えることができる 目標 3. 病床環境調整技術を身に付けることができる</p> <p>活動 目標 1. 活動と休息について理解できる 目標 2. 睡眠・休息の援助について理解できる 目標 3. 活動援助技術を身につけることができる</p>						
準備学習	予習・復習・課題学習として計 45 時間 環境 課題 1 「人間にとっての環境とは何か～環境が人、生活に与える影響～」について、授業を基に B4 用紙に整理する。 課題 2 「望ましい療養環境とは」 どのような環境か、授業を基に B4 用紙に整理する。 課題 3 「療養環境を整えること」について、自己の考えを 1000～1400 字で表現する。						
授業計画							
担当	回数	内容	方法	担当	回数	内容	
林	1	環境とは何かを理解する。	講義	土井	13	活動と休息の意義について理解する	
	2	「環境とはなにか」看護における「環境」とは			14	廃用症候群と活動の関係	
	3	ベッドメイキング技術の基礎知識、方法を理解する。	講義 演習		15	ボディメカニクス・体位の基本的知識	講義 演習
	4				16		
	5		講義		17	睡眠・休息の意義と援助	講義 演習
	6	望ましい療養環境を理解する。			18	活動援助技術の演習	
	7		講義 演習		19	体位変換、安楽な体位、歩行介助、車いす移乗、ストレッチャー	講義 演習
	8	「病床環境整備」技術を理解する			20	車いす移乗技術練習	
	9	事例患者の回復を促進させるための環境	講義 演習		21		
	10				22		
	11	シーツ交換技術練習	講義 演習		23		
	12	臥床患者のシーツ交換の方法を知る					
評価方法	環境 (50%) : 筆記 25% 課題 15% 技術 10% 活動 (50%) : 筆記 30% 課題 10% 技術 10% *実習室での演習については、実習室使用の手引きにある規程が守られていない場合は、総合評価より減点となる場合があります *技術試験について→受験時、規程が守れていない場合は受験できない場合があります。 受験しなかった場合は 0 点となります。 *技術評価についてはルーブリックを参照してください。						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版 ベッドまわりの環境学 医学書院						

科目名	食と排泄援助技術				
単位	1	時間数	30	対象学年	1
担当講師	麻生 由子※実務経験あり 下川さおり ※実務経験あり				
ねらい	人間にとっての食と排泄について理解し、適切な食事援助、排泄援助を習得する。				
到達目標	1. 人間にとって「食べること」の意義を理解することができる。 2. 食に対する援助の必要性を考え、援助方法を理解することができる。 3. 「食べること」について看護の役割を考えることができる。 4. 健康な生活における排泄の意義を理解することができる。 5. 排泄援助に必要な基礎知識を理解することができる。 6. 対象に置応じた排泄援助方法を理解することができる。				
準備学習	予習・復習 計15時間 教科書・技術参考書の要点確認 *特に 人体の発生と成り立ち・老化のしくみ } について復習しておく。 人体と外部環境とのつながり 人体の内部環境の調整				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
麻生	1	人間にとって「食べる」ことの意義	講義		
	2	食べるに関する身体のしくみ、必要な機能	グループワーク		
	3	「食べる」ための援助について考える	講義		
	4	「食べる」ためのアセスメント、食べる方法	グループワーク		
	5	「食べる」援助の実際	演習		
	6	食事介助、口腔ケア			
	7	「食べる」ための看護の役割を考える	講義		
下川	8	排泄の意義と排泄行動	講義		
	9	*排泄の意義 *排泄器官の機能 *排泄のメカニズム *排泄のアセスメント *排泄行動のアセスメント *排泄援助の基本的姿勢	グループワーク		
	10	排泄援助の実際 排泄援助方法の基本 *トイレにおける排泄援助 *ポータブルトイレでの排泄援助 *床上排泄援助	講義 演習		
	11	床上排泄援助の実際 (尿器・便器)	演習		
	12				
	13				
	14	排泄障害時の援助	講義		
	15	(導尿・膀胱留置カテーテル・摘便・浣腸)	演習		
評価方法	評価 食 50% : 筆記試験 50% 排泄 50% : 筆記試験 30% 技術試験 20% *実習室での演習については、実習室使用の手引きにある規程が守れていない場合は、総合評価より-2点となる場合があります。 *技術試験について→受験時、規程が守れていない場合は受験できない場合があります。 受験しなかった場合は0点となります。 *技術評価についてはルーブリックを参照してください。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版				

科目名	身体の清潔援助技術				
単位	1	時間数	30	対象学年	1
担当講師	平義 希 ※実務経験あり				
ねらい	人間が生きていく上での「身体の清潔」「衣生活」の意義と、皮膚粘膜の機能構造を理解した上で、健康障害を持つ対象への清潔援助の基礎知識と実際を学ぶ				
到達目標	①皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 ②清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学ぶ。 ③病床での衣生活の基礎知識を理解し、臥床患者の清拭と寝衣交換・陰洗の手順を学ぶ。 ④足浴・手浴の手順を身につける。				
準備学習	・授業時間以外にも、15時間程度の自己学習及び練習が必要です。 ・人体と外部環境とのつながりで学習した内容を確認しておいてください。 ・下記のテキスト及び授業で配布するプリントで復習し、実技試験前には各自実習室や自宅で練習することを推奨します。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
平義	1	皮膚・粘膜の構造と機能について 人間にとっての清潔とは *清潔と日常生活 *清潔の意義	講義		
	2	清潔援助の実際 その1) 入浴・シャワー浴と全身清拭	講義		
	3	実技演習 全身清拭①	演習		
	4	実技演習 全身清拭②	演習		
	5	清潔援助の実際 その2) 陰部洗浄と陰部の解剖生理	講義		
	6	実技演習 陰部洗浄	演習		
	7	人間にとっての衣服の意義 *衣服の条件・健康状態に応じた衣生活 *寝衣交換の実際 清潔援助の実際 衣生活について *グループワーク	講義 グループワーク		
	8	清潔援助の実際 その3) 洗髪と頭髪・頭皮について 清潔援助の実際 その4) 足浴・手浴、整容について	演習		
	9	清潔援助の実際 その他の清潔援助について	講義		
	10	実技演習 寝衣交換・整容	演習		
	11	実技演習 洗髪	演習		
	12	実技演習 足浴・手浴	演習		
	13	事例から考える Paper patient に必要な清潔援助を考える	グループワーク		
	14	同上	グループワーク		
	15	まとめ	講義		
評価方法	筆記試験 80点 (筆記試験 70点 レポート 10点) *実習室での演習については、実習室使用の手引きにある規定が守れていない場合は、総合評価より減点となります。 *技術試験 20点 受験時、規定が守れていない場合は受験資格がない場合があります。 受験しなかった場合は0点となります。 事前に改めて詳細について告知します。 *技術評価については、ルーブリック評価参照してください。事前に改めて詳細について告知します。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版				

科目名	診療の補助技術				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	廣保 晴美 ※実務経験あり				
ねらい	根拠に基づいた診療補助技術が、安全、安楽かつ正確に実施できるように、看護師に必要な知識と技術、態度を学ぶ				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療における看護師の役割と援助方法を理解することができる。 2. 創傷の管理と包帯法の技術を身につけることができる。 3. 検体の採取、取り扱いの方法を理解し、血液採取の技術を身につけることができる。 4. 安全に与薬を行うための知識を理解することができる。 5. 薬物療法を受ける患者に必要な援助過程や方法、留意事項を理解できる。 6. 注射に伴う危険性を理解し、安全に実施できる。 				
準備学習	授業時間以外でも15時間程度は自己学習が必要です。 次回の授業について教科書での要点確認の予習 授業後の自己学習票の記入と小テストの見直し				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
	1	ガイダンス 診療の補助における看護師の役割	講義 小テスト		
	2	創傷管理の基礎知識と創傷処置 褥瘡予防と褥瘡処置	講義 小テスト		
	3	検査における看護師の役割 検査の種類と方法 検体の採取方法と取り扱い ①尿 便 分泌物	講義 小テスト		
	4	検査における看護師の役割 検体の採取方法と取り扱い ②血液	講義 小テスト		
	5	検体採取の実際 静脈血採血 創処置 包帯法	演習 小テスト		
	6	生体検査 心電図 パルスオキシメーター	講義 小テスト		
	7	安全に与薬を行うための基礎知識 薬物療法の意義 薬物療法の基礎知識 看護の役割	講義 小テスト		
	8	与薬方法の実際 ①経口 直腸内 経皮 外用薬	講義 小テスト		
	9	与薬方法の実際 ②注射	講義 小テスト		
	10	モデルを用いた注射法の実際 ①筋肉注射	講義 演習 小テスト		
	11	モデルを用いた注射法の実際 ②皮下、皮内注射	講義 演習 小テスト		
	12	モデルを用いた注射法の実際 ③静脈内注射	講義 演習 小テスト		
	13	モデルを用いた注射法の実際 ④点滴静脈内注射 側管法	講義 演習 小テスト		
	14	輸血の基礎知識 援助の実際	講義 小テスト		
	15	検査 処置の介助 下部消化管内視鏡検査	講義 小テスト		
評価方法	筆記試験70% 毎回の自己学習票の提出 30% *実習室での演習については、実習室使用の手引きにある規程が守られていない場合は、総合評価より減点となる場合があります。				
テキスト	系統看護学講座 専門2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版				

科目名	看護過程				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	神波 るみ ※実務経験あり				
ねらい	看護過程と看護理論の関連を学び、看護過程のプロセスを学ぶ。 健康障害を持つ対象を理解し、状態に応じた看護を学ぶ。				
到達目標	1. 看護過程の演習を通して、対象に必要な援助を提供する基本的な考え方が理解できる。 1) 看護理論の枠組みを使って情報の分類ができる。 2) 健康時や基準値などと比較して情報の分析ができる。 3) 対象の全体像を表し、ありたい姿を想定しながら看護上の問題を明確にできる。 4) 目標達成に向けた看護計画が立案できる。 5) 対象の反応を見ながら援助を実施し評価できる。 6) 看護記録の法的な位置づけや種類、記載方法の留意点、管理方法が理解できる。 7) 倫理原則が理解できる。				
準備学習	<予習・復習> 計15時 1. 講義開始前⇒事例患者に関する学習 2. 各回の講義前⇒講義進度に合わせた学習				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
神波	1	クリティカルシンキング・リフレクション・問題解決技法	演習		
	2	看護過程構成要素・倫理原則・看護記録の法的位置づけ	講義		
	3	紙上事例 情報の分類	講義		
	4	分析 (原因と成り行き・持てる力)	グループディスカッション		
	5	分析			
	6	分析			
	7	全体像の把握 (関連図) と看護上の問題の明確化			
	8	看護上の問題の優先度 リフレクション 確認テスト			
	9	看護目標の設定			
	10	看護計画の立案			
	11	看護計画の立案 (学習支援に重点を置く) リフレクション 確認テスト			
	12	学習支援時の留意点	講義 演習		
	13	学習支援の実施	演習		
	14	評価	グループディスカッション		
	15	看護記録の種類と記載方法・管理 リフレクション 確認テスト	講義		
評価方法	評価：筆記試験 70% レポート30% 筆記試験時期：科目終了時 レポート提出日：第8. 11. 15回終了後の指定日 筆記試験内容：基礎的な知識と看護過程を活用して事例患者の援助を導き出す内容を問う。 レポート内容：事例患者を用いて、看護過程の展開の実施を問う。 評価基準：ループリック参照				
テキスト	系統看護学講座 専門2 基礎看護技術 I 医学書院				

科目名	フィジカルアセスメント技術				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	亀川典子 ※実務経験あり				
ねらい	看護の対象者の健康状態を把握するために必要なヘルスアセスメントについて学ぶ。フィジカルアセスメント、全身の系統的なフィジカルイグザミネーションの方法を学ぶ。				
到達目標	1. ヘルスアセスメントの定義と方法および、フィジカルアセスメントの定義を理解することができる 2. 系統別フィジカルアセスメントの方法を習得できる。				
準備学習	講義前には講義範囲の教科書を読んでもくること。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
	1	ヘルスアセスメントの意義と目的 ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションの関連性	講義		
	2	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義		
	3	呼吸器系のフィジカルイグザミネーション	演習		
	4		演習		
	5	消化器系のフィジカルアセスメント	講義		
	6	消化器系のフィジカルイグザミネーション	演習		
	7	循環器系のフィジカルアセスメント	講義		
	8	循環器系のフィジカルイグザミネーション	演習		
	9	呼吸器・循環器スキルトレーニング	演習		
	10				
	11	運動器系(筋・骨格系)のフィジカルアセスメント	講義		
	12	運動器系(筋・骨格系)のフィジカルイグザミネーション	演習		
	13	脳・神経系のフィジカルアセスメント	講義		
	14	脳・神経系のフィジカルイグザミネーション	演習		
	15	運動器系、脳・神経系におけるフィジカルアセスメントの知識を活用し、対象への看護援助を考える	演習		
評価方法	筆記試験 80% レポート・演習への参加 20% 演習時の忘れ物や実習入室時の規則が守れていない場合は-2点とする。				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術I 医学書院 看護技術ベーシックス サイオ出版				

科目名	精神看護学総論				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	三國 啓治 中脇 泰典				
ねらい	精神看護の概念を理解し、看護の役割について理解する。 人間の健康な心の働きについて学ぶ。				
到達目標	1. 精神看護の概念を理解し、看護の役割について理解できる。 2. 人間の健康な心の働きについて理解できる。				
準備学習	授業時間外の自己学習が必要です。(15時間) 講義範囲の教科書の予習・復習を行いましょう。				
授業計画					
担当	回数	内容		方法	
三國	1	精神医療の現状 1)精神看護学とは 2)精神看護学の位置づけ 3)精神看護に求められる看護者の資質 4)精神科看護から精神看護学へ 5)精神看護学における看護師の役割		講義	
	2	精神保健医療の歴史の変遷 1)欧米諸国における精神保健医療の歴史の変遷 2)日本における精神保健医療の歴史の変遷		講義	
	3	精神の構造と機能 1)精神の構造 2)精神の機能 a、局所論的観点 b、精神力動的観点 c、発達論的観点 d、適応論的観点		講義	
	4	同上			
	5	コミュニケーション論 1)コミュニケーションとは 2)コミュニケーションの種類 3)コミュニケーションの過程 4)コミュニケーション技術		講義	
	6	対人関係モデルと精神看護 1)患者－看護者関係 2)自己認識の方法 3)患者－看護者関係の検討		講義	
	7	コンサルテーション論 1)コンサルテーションとは 2)リエゾン精神看護 3)精神科専門看護師		講義	
中脇	8	心について 脳の構造と認知機能 神経細胞の主たる細胞		講義	
	9	精神（心）の構造とはたらき 無意識・防衛機制		講義	
	10	精神力動論とその他の理論 対象関係論		講義	
	11	各種発達理論とその他の理論 ライフサイクル		講義	
	12	発達過程 乳児期 幼児期 学童期		講義	
	13	発達過程 青年期 壮年期 老年期		講義	
	14	危機理論・ストレス 危機の諸相と危機介入		講義	
	15	総括		講義	
評価方法	筆記試験（概論：三國 50点 保健：中脇 50点）計100点				
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学概論・精神保健 メヂカルフレンド社				

科目名	精神臨床看護疾病論				
単位	1	時間数	15	対象学年	2
担当講師	阪上 浩文				
ねらい	精神障害の特徴と検査、診断、治療について学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害を持つ人の症状、検査、診断、治療について理解する。 ・主な精神疾患、障害について理解する。 				
準備学習	授業時間外の自己学習が必要です。(30時間) 講義範囲の教科書の予習・復習を行いましょう。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
坂上	1	心の領域と精神症状のとらえかた	講義		
	2	診断のための検査と主な治療法	講義		
	3	統合失調症 不安神経障害	講義		
	4	双極性障害 ストレス障害	講義		
	5	強迫性障害 認知症	講義		
	6	パーソナリティ障害 薬物依存 アルコール依存	講義		
	7	発達障害 摂食障害	講義		
	8	統括講義	講義		
評価方法	筆記試験 出席日数				
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社 参考) 成人看護学7 脳・神経 医学書院				

科目名	精神臨床看護援助論				
単位	2	時間数	45	対象学年	3年
担当講師	香川城治 麻生由子※実務経験あり				
ねらい	精神に障害を持つ対象に特徴的な経過別、症状別の看護について学ぶ				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 精神に障害を持つ対象への診断・検査・治療の看護について理解することができる。 精神に障害を持つ対象が生活していく上での課題と健康な側面について理解することができる。 精神に障害を持つ対象との関係を構築する援助方法について理解することができる。 統合失調症の患者の紙上事例で情報のアセスメント、計画立案を行い、統合失調症の患者への看護について考えることができる。 				
準備学習	精神臨床看護総論、精神臨床看護疾病論の講義内容の見直しを行い、講義に臨みましょう。教科書、講義資料だけではなく、図書室の精神看護学関連図書にも目を通しておくと、精神疾患患者の理解に繋がります。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
香川	1	第1章 精神医療看護の対象者：精神（心）を病むということ	講義		
	2	第2章 精神障害を持つ人の抱える症状を理解する	講義		
	3		講義、DVD視聴		
	4		精神障害を持つ人の抱える症状と診断のための検査		
	5	第6章 精神科病棟という治療的環境と配慮	講義		
	6	精神障害を持つ人への看護	統合失調症		
	7		うつ病、双極性障害		
	8		妄想性障害、アルコール依存、強迫性障害		
	9		摂食障害、ADHD、自閉スペクトラム障害		
	10		身体疾患を合併している患者の看護		
	11	第4章 精神障害を持つ人と「患者－看護師」関係の構築	講義		
	12		講義		
	13	第7章 精神障害を持つ人の地域における生活への支援	講義		
	14	第8章 わが国の精神看護の発展	講義		
	15	災害時の精神保健	講義、グループワーク		
麻生	16	プロセスレコード	講義		
	17	看護過程、統合失調症についての復習	講義、DVD視聴		
	18	基本情報、分析シート、援助計画	個人ワーク		
	19		グループワーク		
	20				
	21	情報の分析、計画立案について発表	グループワーク		
	22				
	23	まとめ 課題提出	講義		
評価方法	筆記試験点数配分：1～15回までの内容（箱田）60点、 16～23回までの内容（麻生）40点（課題提出の有無で減点あり）				
テキスト	新体系看護学全書 精神看護学② 精神障害を持つ人の看護 メヂカルフレンド社				

科目名	成人看護学総論				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	林 清美 ※実務経験あり				
ねらい	成人期の対象の特徴と生活、成人期における看護の目的と役割、成人保険の動向と対策について理解する。				
到達目標	目標1. 成人各期の対象の身体的・精神的・社会的特徴が理解できる 目標2. 現代の成人の生活過程のあり方と病気とのつながりが理解できる 目標3. 健康段階に応じた看護介入に活用できる概念、理論を知ることができる				
準備学習	予習・復習・課題学習として計15時間 課題1. 成人各期の特徴をまとめる（6回目の講義前に提出） 課題2. 「成人期にある人の看護」について自己の考えを1200～1400字で表現する（筆記試験開始前に提出）				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
林	1	成人期とは 成人期の区分と身体の発達	講義		
	2	成人期にある人の家族・社会における役割 ライフサイクルにおける発達課題			
	3	成人各期の健康問題	講義		
	4	成人期にある人の現代生活と健康障害	グループワーク		
	5				
	6	健康障害区分	講義		
	7	慢性期と概念：行動変容 自己効力 セルフケア			
	8	急性期、回復期と概念：危機 受容 適応	講義		
	9	終末期と概念：ターミナルケア 緩和ケア 全人的苦痛	講義		
	10	ヘルスプロモーション ストレスコーピング	講義		
	11	成人の保険問題の動向と対策	講義		
	12	成人期にある人の現代生活と健康障害 生活習慣病 職業性疾病 生活環境衛生	グループワーク		
	13				
	14				
	15	まとめ	講義		
評価方法	筆記試験 80% 課題 20%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会 公衆衛生が見える メディックメディカ				

科目名	健康管理と疾病予防				
単位	1	時間数	30	対象学年	3
担当講師	土井 恵子 ※実務経験あり				
ねらい	健康管理の確立に向けた支援に必要な概念や理論を理解し、対象が自己の持つ力を十分に発揮して自律した健康生活を送るために必要な知識と支援技術を学ぶ。				
到達目標	<p>目標 1. 成人期にある人の健康を脅かす要因とそれに関連する生活活動に潜む危険性について理解できる。</p> <p>目標 2. ヘルスプロモーションとは何か理解できる。</p> <p>目標 3. 個人の主体的な健康づくりのための支援が理解できる。</p> <p>目標 4. 地域社会におけるヘルスプロモーションを促進する看護について理解できる。</p>				
準備学習	予習・復習 計 15 時間 教科書・資料の整理やまとめなどの要点確認 講義中に提示する課題学習				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
土井	1	成人の生活と健康	講義		
	2	成人とは 成人の生活からとらえる健康			
	3	健康を脅かす要因と看護	講義 グループワーク		
	4	健康バランスの構成要素と影響を及ぼす要因			
	5	生活行動がもたらす健康問題とその予防			
	6	ヘルスプロモーションと看護	講義 グループワーク		
	7	ヘルスプロモーションとは			
	8	個人の主体的な健康づくりのための支援 地域社会におけるヘルスプロモーションの促進			
	9	ヘルスプロモーションを促進する看護	グループワーク 演習		
	10	事例対象の分析			
	11	事例対象の援助の立案			
	12	事例対象の援助の実施			
	13				
	14				
	15				
評価方法	配分：筆記試験 60%、事例対象の援助の立案・実施の評価 30% (ルーブリック評価表使用)、レポート 10%				
テキスト	成人看護学1 成人看護学総論 医学書院				

科目名	生命の危機状態にある人の看護				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	林 清美 ※実務経験あり				
ねらい	健康状態の急激な変化や、生命の危機状態にある人への生命の維持と回復をめざした看護について学ぶ。 *周手術期の看護の特殊性を理解することにより、急性期にある人の看護について学ぶ。				
到達目標	目標1. 手術療法を必要とする人の身体的・心理的な特徴が理解できる 目標2. 手術前後の患者の心身の状態を整え、回復を促すための看護が理解できる 目標3. 麻酔・手術による身体侵襲および創傷治癒過程をふまえ、観察の目的・意義が理解できる 目標4. 術後の回復過程の促進および社会復帰に向けての看護について理解できる 目標5. 集中治療の特徴と看護の役割について理解できる				
準備学習	予習・復習・課題学習として計15時間 課題1. 脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔、全身麻酔について提示した項目についてA4用紙にまとめる(2回目の講義に持参する) 課題2. 輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、集中治療室についてA4用紙にまとめる(15回目の講義に持参する) 課題3. 事例患者で考える(内容、提出日は講義内で提示)				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
林	1	手術療法とはどのような治療法なのか 手術療法とは 麻酔、手術侵襲について 周手術期とは	講義		
	2	術後合併症について 麻酔、手術の影響から、術後合併症を理解する	講義		
	3	手術室看護師の役割と看護	講義		
	4	手術室看護師の役割 手術室の環境 麻酔導入時の看護 抜管から体質までの看護			
	5	術直後の看護	講義		
	6	帰室直後の患者の状態と観察 帰室時の環境を整える	演習		
	7	術後合併症を予防し、回復を促す看護	講義		
	8	創傷治癒管理 呼吸器合併症 循環器合併症 疼痛管理 早期離床 術後せん妄			
	9	退院後の生活、 社会資源の活用、	グループワーク		
	10	手術決定から入院までの看護 術前の患者心理 術前オリエンテーションの目的と方法 術前検査の目的と内容	講義		
	11	術前の身体状態のアセスメント 術前の呼吸状態、循環状態、栄養状態の把握と看護 手術に影響を与える因子	講義		
	12	術前の看護 術前訓練の目的と方法 手術前日の看護	講義		
	13	手術当日の看護(入室まで)	講義		
	14	救急、集中治療	講義		
	15	集中治療の環境と看護の役割 緊急時の看護	講義		
評価方法	筆記試験 80% 準備学習 10% 事例患者の課題(内容は講義内で提示) 10% 日赤講習レポート 追加5点				
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論 臨床外科看護各論 医学書院				

科目名	疾病をもつ人の生活調整				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	亀川典子 ※実務経験あり				
ねらい	疾病をもつということ、健康障害による生活過程の変化を考えながら、その人に応じた看護の方法について学ぶ。				
到達目標	1. 回復過程とリハビリテーションを支える看護の特徴を理解することができる。 2. 疾病をもちながら生活する人々を支えるためのアセスメント方法と支援方法を理解することができる。				
準備学習	脳梗塞の分類と病態を学習し提出 慢性心不全の病態と症状について学習し提出				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
	1	回復・リハビリテーションを支える看護 障害とは 法における障害者	講義		
	2	障害受容の過程	講義		
	3	リハビリテーションの概要と看護の役割	講義		
	4	ADL のアセスメント	講義		
	5	国際生活機能分類 ICF	講義		
	6	事例を用いたグループワーク	講義		
	7	「脳梗塞による後遺症をもつ人の看護」 ・病態生理を理解しておくことの意義 ・ICF の視点で患者の全体像を捉える ・ADL、できるADL、しているADLについて考える	講義		
	8		講義		
	9		講義		
	10		講義		
	11	事例を用いたグループワーク	講義		
	12	「慢性疾患との共存を支える看護」 ・慢性疾患をもちながら生活する人の理解 ・行動変容を支える看護 ・セルフケアとセルフマネジメントの支援	講義		
	13		講義		
	14		講義		
	15		講義		
評価方法	筆記試験 80% グループワークのワークシート提出と事前学習の提出 20%				
テキスト	系統看護学講座 成人看護学⑦ 専門Ⅱ 脳・神経 系統看護学講座 成人看護学① 専門Ⅱ 成人看護学総論				

科目名	緩和ケアが必要な人の看護				
単位	1	時間数	30	対象学年	3
担当講師	麻生由子 ※実務経験あり				
ねらい	緩和ケアが必要な人が、人間としての尊厳を保ち、その人や家族にとって生と死が有意義なものとなることを目指した看護を理解する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者に必要な看護について理解する。 2. 緩和ケアが必要な人の生活を理解する。 3. 緩和ケア医療の現状と概念を理解する。 4. 緩和ケアが必要な人への看護、看護師の役割を理解する。 				
準備学習	1, 2年次の病理学総論、各内科的治療、外科的治療などで学んだことの復習をしましょう。がん看護、緩和ケアに関するニュースなどに関心を持って見聞きしてください。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
麻生	1	がん患者の思いを知る	グループワーク		
	2	体験記などを通して患者、家族の思いを知る			
	3	がんの診断、検査、治療についての復習	講義		
	4	がん治療の看護（化学療法、放射線療法を中心に）	講義		
	5	肺がん患者の事例を通して、がん患者の看護を考える	グループワーク		
	6	緩和ケアとは	講義		
	7	全人的苦痛について	講義		
	8	事例を通して苦痛の看護について考える	グループワーク		
	9	死を意識する患者の思いについて考える	グループワーク		
	10	家族への看護	グループワーク、講義		
	11	緩和ケアを提供する場について知る	講義		
認定看護師 （外部）	12	一般病棟における緩和ケアの実際	講義		
麻生	13	死とは	グループワーク、講義		
	14	危篤時の看護、死者への看護	講義		
	15	まとめ	グループワーク、講義		
評価方法	<p>筆記試験 80% 課題レポート 20%</p> <p>筆記試験時期：科目終了後</p> <p>レポート提出日：指定日</p> <p>レポート評価：提示した課題について、指定用紙に記述する。内容について評価基準に基づいて評価を行う。</p> <p>加点：がん看護、緩和ケアに関するボランティアへの参加後、報告書提出があれば加点を行う。加点は“社会的活動等の参加について”に準ずる。</p> <p>※リレー・フォー・ライフ・ジャパン広島については内容を提示します。</p>				
テキスト	成人看護学2 呼吸器 緩和ケア 大切な生活・尊厳ある生をつなぐ技と心 系統看護学講座 専門2 基礎看護技術Ⅱ 看護技術ベーシックス		医学書院 南江堂 医学書院 サイオ出版		

科目名	成人看護過程				
単位	1	時間数	15	対象学年	3
担当講師	麻生由子 ※実務経験あり				
ねらい	成人期にある人の看護過程の展開技術を学ぶ。				
到達目標	看護過程を展開することで成人期にある人の看護を具体的に考えることができる。				
準備学習	講義開始までに疾患の学習を行ってください。 講義の進度に合わせて、個人で計画的に行いましょう。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
	1	看護過程、成人期の特徴の復習 事例について 基本情報用紙の記入	講義 個人ワーク		
	2	分析シートの記入を行いながら、情報の整理 講義終了後：基本情報、分析シート提出	個人ワーク グループワーク		
	3				
	4	基本情報、分析シートについての全体討議			
	5	援助計画の立案			
	6				
	7	援助計画についての全体討議			
	8	まとめ テスト終了後：すべての記録用紙提出	講義		
評価方法	点数配分：筆記試験 40% レポート 60% 筆記試験時期：科目終了時 レポート提出日：指定日 レポート評価方法：事例患者を用いて、看護過程の展開の実施を問う。 評価視点（ルーブリック評価表）をもとに評価を行う。				
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I 医学書院 成人看護学総論 医学書院 成人看護学 2～15 医学書院				

科目名	老年看護学総論				
単位	1	時間数	30	対象学年	2
担当講師	豊田 眞子				
ねらい	老年期にある対象の特徴を理論や統計をもとに学習し、地域から施設までをふまえた老年看護の視点を理解する。				
到達目標	1. 老年期にある対象の特徴を理解できる。 2. 高齢者のヘルスアセスメントの基本が理解できる 3. 生活・療養の場を理解し、家族看護、高齢者のリスクマネジメントの視点を理解できる。				
準備学習	<予習・復習> 授業時間外に自己学習が必要となります。計15時間 ①既習内容の解剖生理学、高齢者疾病論、社会福祉等の知識を振り返り老年看護に結びつける ②ワークショップ形式を理解し積極的に自分の考えを発表する。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
豊田	1	第1章 老いるということ、老いを生きるということ	講義 ワークショップ		
	2	第2章 超高齢社会と社会保障 A. 超高齢社会の統計的輪郭	講義 ワークショップ		
	3	B. 高齢社会における保健医療福祉の動向	講義 ワークショップ		
	4	C. 高齢者の権利擁護	講義 ワークショップ		
	5	第3章 老年看護のなりたち	講義 ワークショップ		
	6	第4章 高齢者のヘルスアセスメント A. ヘルスアセスメントの基本	講義		
	7	B. 身体の高齢変化とアセスメント	グループワーク		
	8	B. 身体の高齢変化とアセスメント	発表		
	9	B. 身体の高齢変化とアセスメント	発表 確認テスト		
	10	第9章 生活・療養の場における看護 A. 高齢者とヘルスプロモーション	講義 ワークショップ		
	11	B. 保険医療福祉施設及び居住施設における看護	講義 ワークショップ		
	12	C. 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義 ワークショップ		
	13	第10章 高齢者のリスクマネジメント A. 高齢者と医療安全 B. 高齢者と救命救急	講義 ワークショップ		
	14	C. 高齢者と災害	講義 ワークショップ		
	15	第8章 エンドオブライフケア	講義 ワークショップ		
評価方法	筆記試験（80点）ワークショップ課題提出（10点） ボランティア点（10点）				
テキスト	老年看護学 医学書院				

科目名	老年臨床看護疾病論				
単位	1	時間数	15	対象学年	2
担当講師	土本 薫				
ねらい	老年期の健康と障害の特徴と症状・検査・治療を理解する。				
到達目標	高齢者の健康と障害について学習し、看護師としての基礎的知識を習得する。				
準備学習	予習・復習 計30時間 教科書・資料の整理やまとめなどの要点確認 講義中に提示する課題学習（レポート）				
授業計画					
担当	回数	内容			方法
土本	1	老年看護に求められるもの			講義
	2	老年者の生理的特徴			講義
	3	老年症候群			講義
	4	高齢者のフィジカルアセスメント			講義
	5	高齢者の疾患の特徴			講義
	6	高齢者と薬			講義
	7	高齢者のリハビリテーション			講義
	8	高齢者の在宅医療とエンドオブライフケア 医療看護におけるコミュニケーションスキルの概要			講義
評価方法	レポート 学習態度 (10%) 筆記試験 (選択 80%・記述 10%) ※8回目の授業終了後に試験があります。				
テキスト	老年看護 病態・疾病論 医学書院				

科目名	老年臨床看護援助論				
単位	1	時間数	30	対象学年	3
担当講師	神波 るみ ※実務経験あり				
ねらい	高齢者の生活機能を整える看護の基礎的知識が習得できる。				
到達目標	1. 高齢者の現状が統計より理解できる。 2. 健康寿命の延伸にむけた看護が理解できる。 3. 健康逸脱からの回復を促す看護が理解できる。 4. 薬物療法を受ける高齢者の看護が理解できる。				
準備学習	講義に合わせた課題を行う。				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
神波	1	統計 フレイル 筋肉量の維持 栄養	講義		
	2	転倒 廃用症候群	講義		
	3	摂食・嚥下機能 アセスメントツール 栄養状態の判定	講義		
	4	誤嚥予防に向けた援助 口腔内の健康状態の維持	講義		
	5	嚥下食の体験 嚥下体操	演習 グループディスカッション		
	6	高齢者の社会参加 統計 生活時間の変化 エイジングレスライフ	講義		
	7	高齢者の社会参加の実際 認知症患者のDVD 視聴	演習 グループディスカッション		
	8	認知症 コミュニケーション支援 (回想法) 意思決定支援	講義		
	9	確認テスト 清潔への支援 スキンケア 褥瘡	講義		
	10	自然な排泄への支援 (便秘・尿失禁・過活動膀胱)	講義		
	11	生活リズムを整える支援 睡眠障害 薬物療法	講義		
	12	確認テスト 薬物療法を受ける高齢者の看護	講義		
	13	健康逸脱からの回復を促す看護 (緑内障・白内障・難聴)	講義		
	14	健康逸脱からの回復を促す看護 (浮腫)	講義		
	15	確認テスト 健康逸脱からの回復を促す看護 (脱水)	講義		
評価方法	配分：筆記試験 90% レポート 10% 筆記試験時期：科目終了時 レポート提出時期：講義日に随時指定 筆記試験内容：高齢者の生活機能を整える看護、健康逸脱からの回復を促す看護、薬物療法を受ける高齢者の看護の基礎的知識を問う内容 レポート評価基準：提出日と提出内容 減点方式 (各項目毎2点)				
テキスト	老年看護学 医学書院 老年看護 病態 疾病論 医学書院				

科目名	老年看護過程				
単位	1	時間数	15	対象学年	3年
担当講師	神波 るみ ※実務経験あり				
ねらい	看護過程の展開技術を学ぶ。				
到達目標	事例患者に対して、根拠のある援助計画が立案できる。 1. 学習目標に照らし合わせ、学習準備ができる。 2. 根拠のある援助計画の立案ができる。 3. 学びと課題が明確になる。				
準備学習	<予習・復習> 計30時間 1. 講義開始前・第3. 5. 7回終了後⇒事例患者に関する学習 2. 各回の講義前⇒ 講義進度に合わせた学習				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
	1	「生活と疾患のつながりがイメージできる」とは？	講義 グループディスカッション		
	2	事例患者の病態分析⇒ポスターセッション	講義 グループディスカッション		
	3	事例患者の病態分析⇒全体討議	講義 グループディスカッション		
	4	栄養と排泄分析⇒全体討議	講義 グループディスカッション		
	5	活動と休息⇒ポスターセッション	講義 グループディスカッション		
	6	発達課題・価値観⇒ポスターセッション	講義 グループディスカッション		
	7	「患者の状態に応じた計画」とは？ 援助計画の立案	講義 グループディスカッション		
	8	まとめ 8回目の授業終了後、筆記試験	グループディスカッション		
評価方法	配分：筆記試験 60% レポート40% 筆記試験時期：科目終了時 レポート提出日：第3. 5. 7回終了後の指定日 筆記試験内容：事例患者を提示し、根拠のある援助計画の立案を問う。 レポート内容：事例患者を用いて、看護過程の展開の実施を問う。 評価基準：ルーブリック参照				
テキスト	老年看護学 医学書院 老年看護 病態 疾病論 医学書院				

科目名	小児看護学総論				
単位	1	時間数	30	対象学年	3
担当講師	下川 さおり ※実務経験あり				
ねらい	小児看護学の対象、機能等について学ぶ。また、小児の成長発達の特徴およびその看護と家族への看護について学ぶ。				
到達目標	①小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的を理解する。 ②子どもの成長発達とその特徴を理解する。 ③子どもの安全を守り、成長発達を促す環境を理解する。 ④小児保健統計を踏まえ、子どもとその家族を守る法律や福祉施策を理解する。 ⑤小児各期の日常生活の援助方法を理解する。 ⑥健康な子どもの栄養と食生活を理解する。 ⑦子どもの人権を守り、倫理的配慮について理解する。				
準備学習	予習・復習 計15時間 教科書・資料の整理やまとめなどの要点確認 講義中に提示する課題学習				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
下川	1	ガイダンス 子どもとは 子どもに対するイメージ 子どもの特徴	講義 グループワーク		
	2	小児看護の特徴と理念 小児看護と医療の変遷	講義		
	3	小児看護に関する統計	講義		
	4	子どもの成長と発達① 一般的原則と成長発達に影響する因子 ②成長発達の評価	講義		
	5	子どもと栄養① 子どもにとっての「食べる」とは	講義		
	6	②発達段階別の子どもの栄養とその特徴と看護 ③食育	講義 演習		
	7	各期の成長発達の特徴とその看護①	グループワーク		
	8	②			
	9	③発表会			
	10	子どもにとっての家族①現代の家族の特徴	講義		
	11	②家族のアセスメント	講義		
	12	子どもと家族を取り巻く現状①子どもを守る法律と施策	講義		
	13	②予防接種・学校保健	講義		
	14	子どもを取り巻く危険因子と安全を守る看護	講義・演習		
	15	まとめ			
評価方法	配分：筆記試験90% レポート10% 筆記試験時期：科目終了時 筆記試験内容：当講義で学習した項目・内容について レポート内容：各年齢の成長発達の特徴について（指定する提出期限内に提出する）				
テキスト	①系統看護学講座 専門22 小児看護学（1）小児看護学概論小児臨床看護総論 医学書院 ②ナーシンググラフィカ 小児看護学②小児看護技術 メディカ出版				

科目名	小児臨床看護疾病論				
単位	1	時間数	30	対象学年	3
担当講師	福本 泰規 宇根 知香 下川 さおり				
ねらい	小児によく見られる主な疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解する。				
到達目標	小児期にある看護の成長発達や健康障害に焦点をあて、小児とその家族の心身の状態や生活について理解し、小児期に必要な疾患、その検査法、治療法について理解できる。				
準備学習	予習・復習 計15時間 教科書・資料の整理やまとめなどの要点確認				
授業計画					
担当	回数	内容			方法
宇根	1	先天異常			講義
	2	新生児			講義
	3	代謝性疾患、内分泌疾患			講義
	4	免疫・アレルギー性疾患、リウマチ性疾患			講義
	5	血液・造血器疾患・造血器腫瘍			講義
	6	神経疾患			講義
	7	精神疾患			講義
福本	8	感染症 予防接種・ワクチン			講義
	9	呼吸器疾患			講義
	10	循環器疾患			講義
	11	消化器疾患			講義
	12	悪性新生物 脳腫瘍含め固形腫瘍			講義
	13	腎・泌尿器疾患			講義
	14	事故・外傷			講義
下川	15	川崎病、先天性心疾患 等			講義
評価方法	筆記試験（福本50点 宇根50点）計100点				
テキスト	系統看護学講座 小児臨床看護各論 医学書院				

科目名	小児臨床看護援助論					
単位	2	時間数	45	対象学年	3	
担当講師	下川 さおり 村上 明子 佐藤 朋美					
ねらい	小児の特徴を理解し、成長発達に応じた養護と、健康障害をもつ小児およびその家族に対する看護を理解する。					
到達目標	健康な小児の離開をもとに、健康障害や入院が子どもとその家族に与える影響を理解し、子どもとその家族への看護を理解することができる。また小児看護に必要な技術を理解することができる。					
準備学習	予習・復習 計45時間 教科書の要点確認					
授業計画						
担当	回	内容	方法	回	内容	方法
1～14回 下川 テキスト ①③	1	病気・障害が子どもと家族に与える影響	講義 グループ ワーク	15	手術療法を受ける子どもと家族の看護	講義
	2			16	症状を示す子どもの看護 *不きげん、啼泣、呼吸困難 チアノーゼ	講義
15～21回 村上 テキスト ①	3	子どもの看護技術	演習 グループ ワーク	17	*ショック、意識障害、けいれん	講義・DVD
	4			18	*発熱、嘔吐、下痢	講義・グループワーク
	5			19	*便秘、脱水	
	6			20	*浮腫、出血	
	7			21	*貧血、発疹、黄疸	
22～23回 佐藤 テキスト ①②	8	入院中の子どもと家族の看護 －慢性期－	講義	22	低出生体重児の特徴と看護	講義
	9	入院中の子どもと家族の看護 －終末期－	講義 DVD	23		
	10	在宅療養をしている子どもと家族 災害時の子どもと家族	講義			
	11	看護過程の展開 *紙上事例を用いて子どもと家族の看護を考える	講義 グループ ワーク			
	12					
	13					
	14	子どもと家族の安全を考える	講義			
評価方法	筆記試験 100点（下川 50% 村上 40% 佐藤 10%） *子供に関する社会的活動に参加し、レポート提出した場合は加点がある。 （詳細は社会的活動を参照のこと。また下川まで参加前に申し出てください）					
テキスト	①系統看護学講座 小児看護学概論小児臨床看護総論			医学書院		
	②系統看護学講座 小児臨床看護各論			医学書院		
	③ナーシング・グラフィカ 小児看護技術			メディカ出版		

科目名	母性看護学総論				
単位	1	時間数	30	対象学年	3
担当講師	橋本 淳子 ※実務経験あり				
ねらい	女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問であり、女性特有の健康課題や生命倫理などの多岐にわたった問題を理解し、一生涯にわたり新しい命を健康にはぐくむための施策や方法を学ぶ				
到達目標	<p>母性看護の対象となる人々、関連する保健医療のしくみ、倫理的問題、人間の性と生殖の仕組みについて理解ができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護の対象の特徴とその母性看護独自の特徴をしり、母性看護の基盤となる概念を理解することができる 2) 社会的変化と関連させながら母子保健統計を理解し、母子保健の現状を知ることができる。母子保健の現状に対する法律や母子保健施策を知ることができる。 3) セクシュアリティの概念を理解し、性と生殖の側面の健康とセクシュアリティの関連について理解出来る。生殖器の形態および機能について、月経周期による変化について理解できる。 4) 思春期・更年期における対象の特徴や特有の健康問題から必要な看護を理解できる 5) 女性を取り巻く問題について理解できる 6) 人間の性と生殖・ライフサイクル各期のリプロダクティブヘルスケアを考えることができる 				
準備学習	<p>授業時間以外に、15時間程度は自己学習が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズ講演会（4時間）とレポート ・基礎体温の測定とアセスメント・出生時と育児のレポート ・母子保健の課題に対するグループワークまとめ <p>については自己学習をし学びを深めてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健施策と母子保健の法律・母子保健統計は理解の為に復習が必要です。 				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
橋本	1	I 1. 母性とは	講義		
	2	2. セクシュアリティ ・性の捉え方と多様な性について 3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	講義・映像資料		
	3	II 1. 母子保健統計の動向 ・出生、周産期死亡に関わる動向	講義		
	4	2. 母性看護に関する組織と法律 ・母子保健法、育児介護休業法、男女雇用機会均等法	講義		
	5	3. 母子保健に関連する施策 ・こども子育て新支援制度、健やか親子21	講義		
	6	III 1. 生殖器の形態・機能	講義・映像資料		
	7	・基礎体温と月経周期とホルモン動態	講義		
	8	2. 妊娠と胎児の性分化 ・性分化のメカニズム	講義		
	9	IV 1. 思春期・成熟期女性の健康問題と看護	講義		
	10	・思春期の身体的特徴と心理・社会的特徴	講義		
	11	・健康問題および看護（月経困難症・性感染症・DV）	講義		
	12	2. 更年期女性の健康問題と看護	講義		
	13	V リプロダクティブヘルスケア 健康問題について調べる	グループワーク		
	14	V リプロダクティブヘルスケア 健康問題についてまとめる	グループワーク		
	15	V リプロダクティブヘルスケア 発表	グループワーク		
評価方法	出席日数・筆記試験（80%）、 レポート（20%：エイズ講演会レポート5点・基礎体温測定や出生時についてのレポート課題10点・グループワーク5点 ケアリングシート未提出減点1点/回）				
テキスト	母性看護学概論 母性看護学① 医学書院				

科目名	周産期にある人の看護						
単位	2	時間数	45	対象学年	3年		
担当講師	廣保晴美 ※実務経験あり		藤原真由美				
ねらい	新しい家族の誕生期にある対象の人々の健康支援と健康問題に対する看護を学ぶ。						
到達目標	1) 妊娠期・分娩期・産褥期の身体的、心理的、社会的変化とそれらへの適応が説明できる。 2) 各期のセルフケアと健康障害の予防、健康増進を促し、新しい家族形成への看護が説明できる。 3) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の健康障害とその援助を理解することができる。 4) 新生児の胎外生活適応過程と看護が説明できる。						
準備学習	授業時間以外でも45時間程度は自己学習が必要です。教科書での要点確認 演習前の個人学習 生殖器の解剖生理の復習 授業後の自己学習票の記入と小テストの見直し						
授業計画							
担当	回数	内容	方法	担当	回数	内容	方法
廣保	1	ガイダンス 妊娠の定義とメカニズム 妊娠期間と数え方 分娩予定日の算出方法	講義 DVD 小テスト	藤原	17	多産・流産・早産・切迫早産・異所性妊娠	講義
	2	妊娠経過と身体的・心理的变化 家族の心理	講義		18	産道の異常・娩出力の異常・胎児の異常による分娩障害・胎児付属物の異常・羊水の異常	講義
	3	胎児の発育 胎児付属物とその機能	講義		19	胎盤機能不全・分娩時の損傷・分娩第3期の異常・分娩時出血	講義
	4	マイナートラブルと看護	演習				
	5	順調な妊娠経過のための看護	講義		20	分娩誘発・吸引分娩 鉗子分娩・帝王切開 子宮復古不全・産褥熱	講義
	6	分娩経過とその看護	演習				
	7	分娩の3要素 分娩経過と分娩機序	講義				
	8	順調な分娩経過のための看護	講義		21	マタニティブルー 産褥うつ・乳房トラブル・児を亡くした褥婦・家族ケア	講義
	9	産褥の定義 産褥期の生理 (退行性変化)	講義				
	10	産褥期の生理 (進行性変化)	講義		22	新生児仮死・分娩外傷・低出生体重児・呼吸窮迫症候群・高ビリルビン血症・ビタミンK欠乏性出血	
	11	産褥期の生理 (心理的变化) 家族の心理	講義				
	12	順調な産褥経過のための看護	講義				
	13	新生児の定義と特徴	講義		23	まとめ	講義
	14	新生児の生理的变化	演習				
	15	順調な胎外生活適応への看護	講義				
藤原	16	ハイリスク妊産褥婦・新生児の看護 合併妊娠・感染症・妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群	講義	廣保			
評価方法	廣保 60% 筆記試験 45点 自己学習票の提出 15点 藤原 40%						
テキスト	系統看護学講座 母性看護学各論 医学書院 病気がみえる vol10 産科 改定第4版 メディックメディア						

科目名	母性臨床看護技術				
単位	1	時間数	30時間	対象学年	3
担当講師	橋本 淳子 ※実務経験あり		廣保 晴美 ※実務経験あり		
ねらい	新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むために、周産期の看護に必要な基礎知識・技術を学ぶ。				
到達目標	1) 妊婦および胎児の看護に必要な看護過程と看護技術について理解できる 2) 産婦および胎児の看護に必要な看護過程と看護技術について理解できる 3) 褥婦および新生児の看護に必要な看護過程と看護技術について理解できる				
準備学習	授業時間以外でも約15時間程度は自己学習が必要です。 下記については、授業の事前学習としてまとめ、提出すること ・妊婦健診のアセスメント ・胎児心拍モニタリング装置の装着技術 ・分娩各期における産婦の看護				
授業計画					
担当	回数	内容	方法		
廣保	1	母性看護学の考え方 母性看護学における看護過程	講義		
	2	産褥期の看護 産褥経過の診断①(母体面のアセスメント)	講義		
	3	新生児期の看護 胎外生活適応の過程①(生理的変化のアセスメント)	講義		
	4	周産期の紙上事例による看護過程① 事例提示	ワーク		
	5	周産期の紙上事例による看護過程② アセスメント	ワーク		
	6	周産期の紙上事例による看護過程③ 看護の実際	ワーク 発表		
	7	正常経過をたどる褥婦と新生児の看護過程 演習のまとめ	講義		
	8	褥婦・新生児の健康増進への援助④ 沐浴 衣服とオムツ交換 授乳の仕方 バイタルサイン測定 子宮復古の観察	演習		
9～15 橋本	9	1. 妊娠期における看護： 妊娠経過の診断①(母体面のアセスメント)	講義		
	10	1. 妊娠期における看護：グループワーク 妊娠経過の診断②(母体面のアセスメント) ①妊婦健診のアセスメント提出	講義・演習		
	11	1. 妊娠期における看護： 妊娠経過の診断③(胎児のwell beingの評価)	講義		
	12	1. 妊娠期における看護： 妊娠経過の診断④ グループワーク	講義・演習		
	13	1. 妊娠期における看護： 胎児心拍モニタリング装着技術、レオポルド触診法 ②NST装着手順のまとめ提出	実習 ワークシート		
	14	2. 分娩期における看護：分娩第Ⅰ・ⅡⅢ期の看護援助 ③分娩各期の看護と根拠提出	演習・ロールプレイ ワークシート		
	15	2. 分娩期における看護： 分娩第Ⅳ期の観察と看護	講義		
評価方法	廣保50% 上記①～④提出物(20点 減点方式) 授業参加状況・筆記試験(30点) 橋本50%… 授業参加状況・筆記試験(35点)・ 上記①～③提出物と授業ワークシート(15点減点方式)				
テキスト	母性看護学各論 母性看護学2 医学書院 病気がみえる 産科 メディックメディア				